

高津川水系河川整備基本方針

土砂管理等に関する資料（案）

平成17年11月25日

国土交通省河川局

目 次

1 . 流域の概要	1
2 . 河床変動の状況	3
3 . 河口部の状況	6
4 . まとめ	8

1．流域の概要

高津川^{たかつがわ}は、島根県最西部の日本海側に位置し、その源を山口県境に連なる中国山地の麓に発し、北に流下しながら高尻川^{たかじりがわ}、福川^{ふくがわがわ}等の支川を集め、日原町^{にちはら}において津和野川^{つわのかわ}と合流し、さらに益田市において本水系最大の支川匹見川^{ひきみがわ}を合わせ、その下流において分派川をつくり、再び一本となり益田平野を貫流し日本海に注ぐ、幹川流路延長 81km、流域面積は 1,090km²の一級河川である。

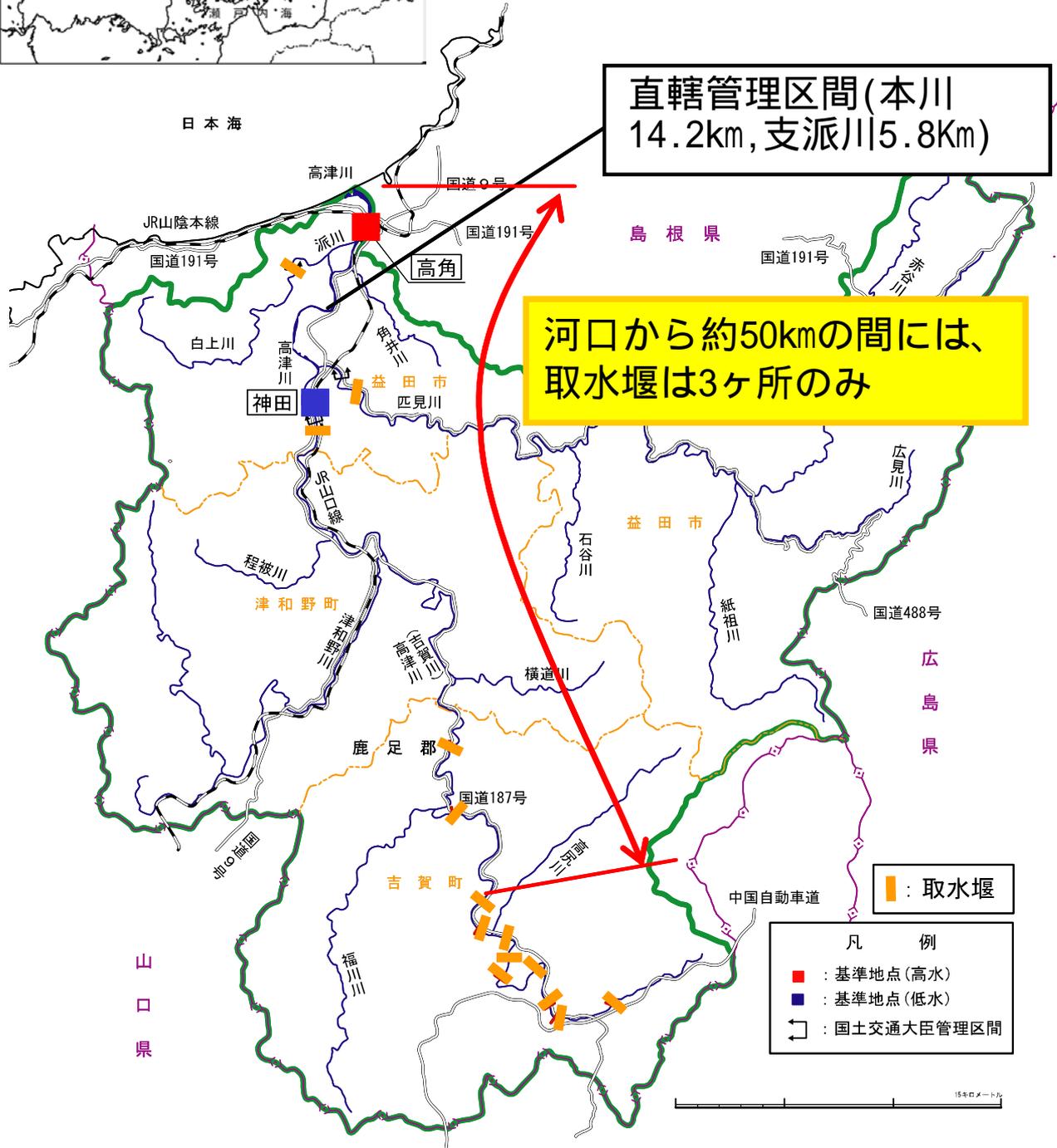
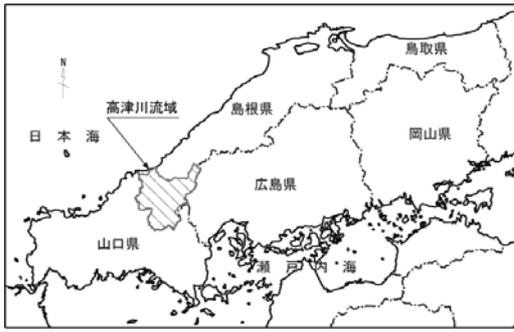
その流域は、1市2町村からなり、下流部には島根県西南部^{せきせい}の石西地方の中心都市である益田市があって、この地域における社会・経済・文化の基盤をなしている。支川匹見川の上流部は、西中国山地国定公園に指定され、豊かな自然環境にも優れている。このように、本水系の治水・利水・環境についての意義は極めて大きい。

流域の地形は、全体的に平地に乏しく、山地面積が全流域の 96%を占めるなど急峻な地形となっている。平地がまとまってあるのは最下流の益田市で、益田平野等の沖積平野が広がり市街地化している。

流域の地質は、上流部、中流部、下流部でその特徴が明瞭に別れている。上流部の地質は、主として中～古生界の火山岩類・堆積岩類で形成され、中流部は中生代白亜紀の流紋岩類、下流部は中～古生界の堆積岩類で形成されている。

現在、堰など横断工作物に関しては、直轄管理区間の上流端付近に農業用取水堰 1 施設、指定区間では河口から約 50km となる吉賀町付近から下流に発電用取水堰 2 施設が存在するのみで、高津川は中下流部において横断工作物の少ない河川である。

一方、河口の安定と航路の確保を目的に昭和 20 年代から導流堤が建設されており、中央部が昭和 40 年代半ばまでに、右岸部については昭和 40 年代末頃までにそれぞれ現在の姿となり、河口部の安定と維持に効果を発揮している。



項目	諸元	備考
流路延長	81km	全国 62 位 / 109 水系
流域面積	1,090km ²	全国 63 位 / 109 水系

2. 河床変動の状況

1) 河床変動の縦断的变化

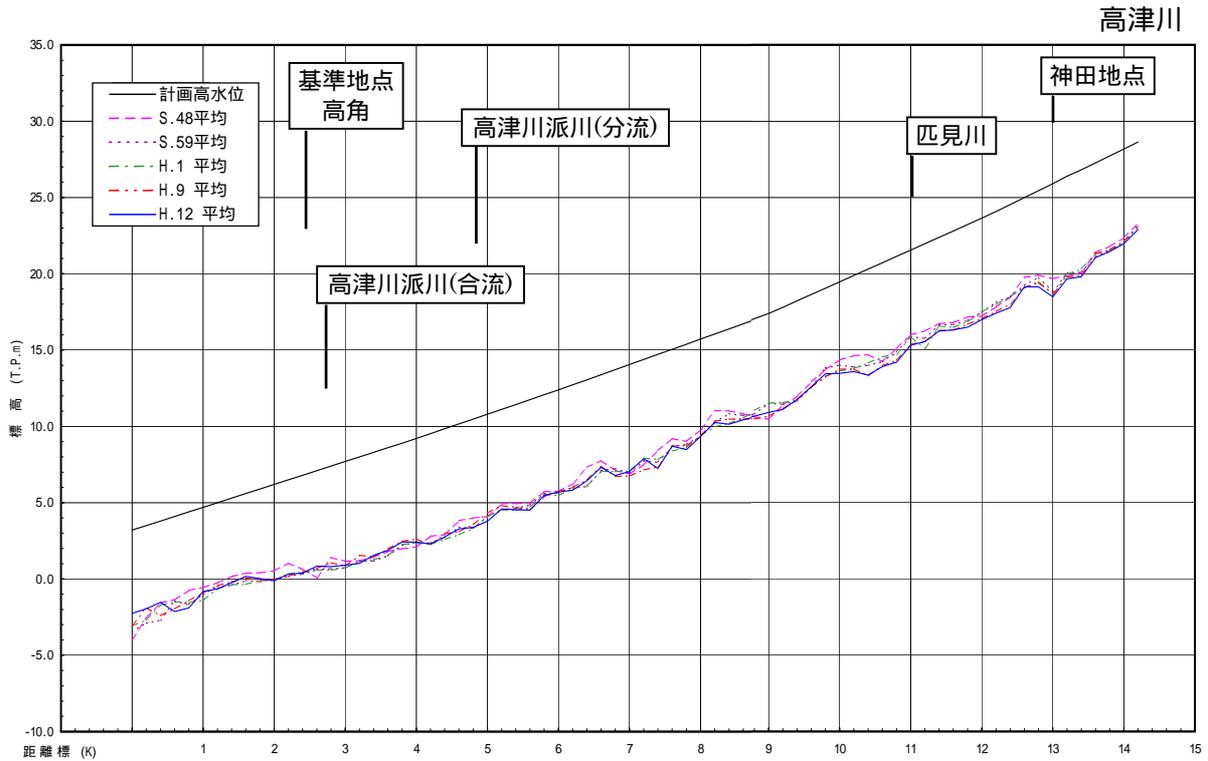


図 2-1 低水路平均河床高縦断図

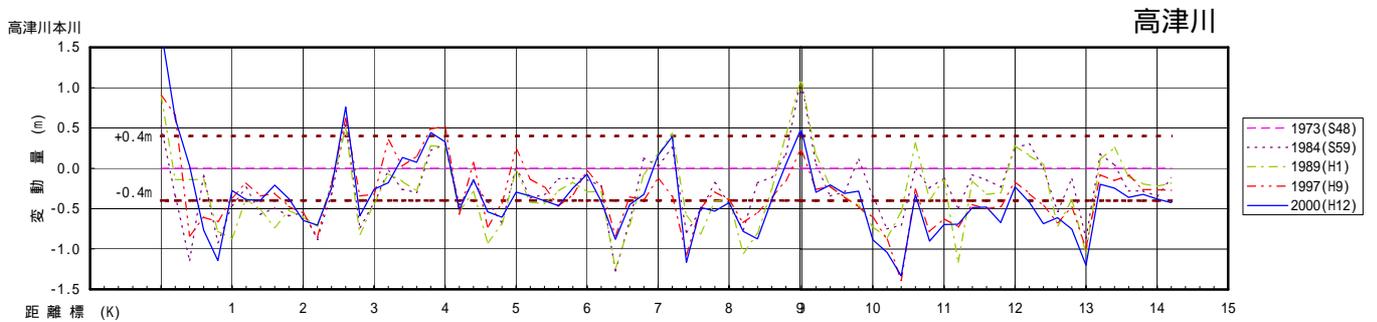


図 2-2 河床変動縦断図(S48 基準)

既往 28 年間（1973 年～2000 年）の低水路平均河床高は、改修工事による河床掘削の影響を除いた 1984 年以降は、縦断的及び経年的にも全川にわたって侵食、堆積の大きな変動が見られず、河床は安定している。

同様に河床変動高は、1984 年以降は経年的に概ね $\pm 50\text{cm}$ 程度の間での変動はあるが、侵食や堆積の傾向はない。

2) 横断形状の変化

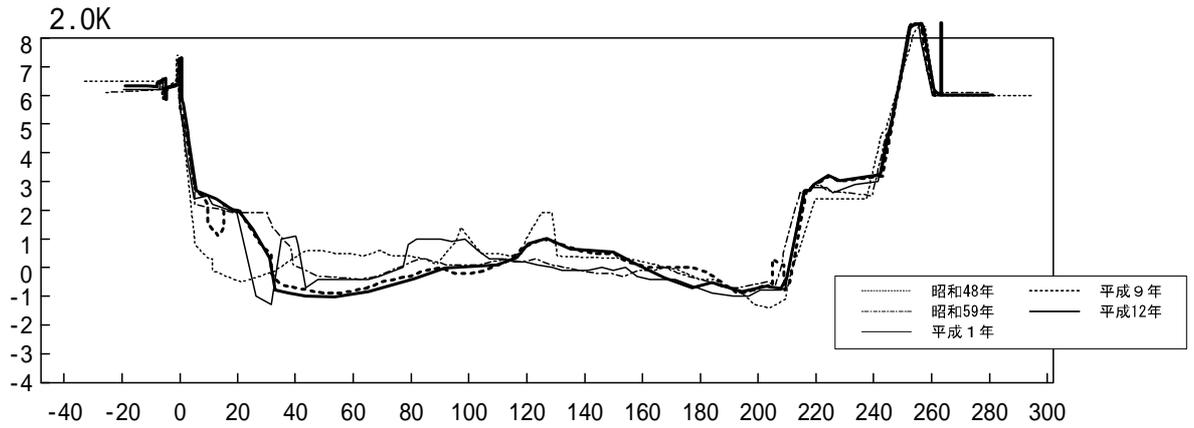


図 2-3(1) 高津川 2.0k 横断面図

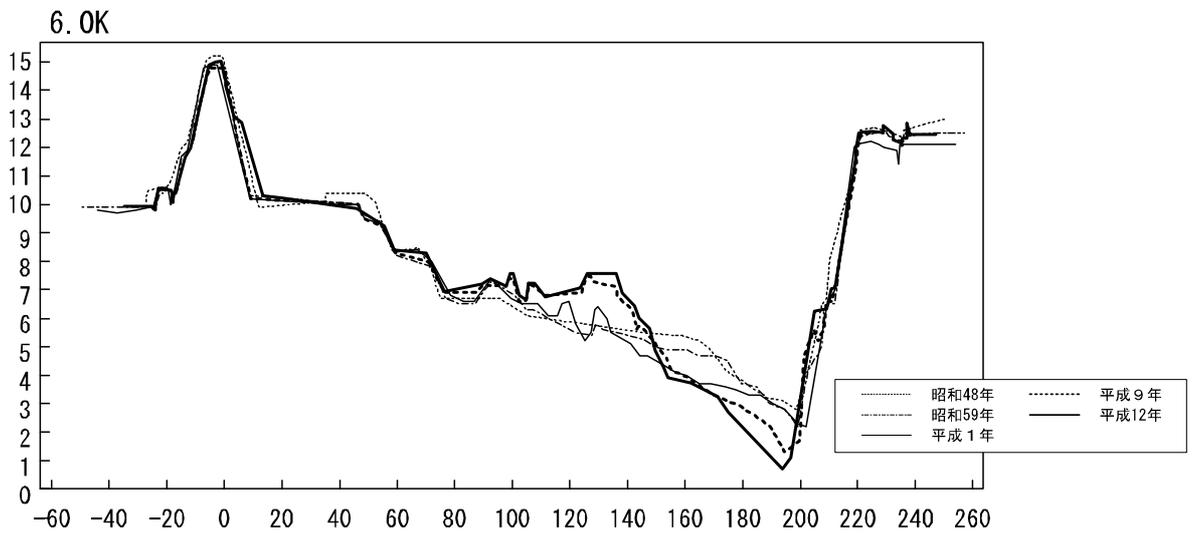


図 2-3(2) 高津川 6.0k 横断面図

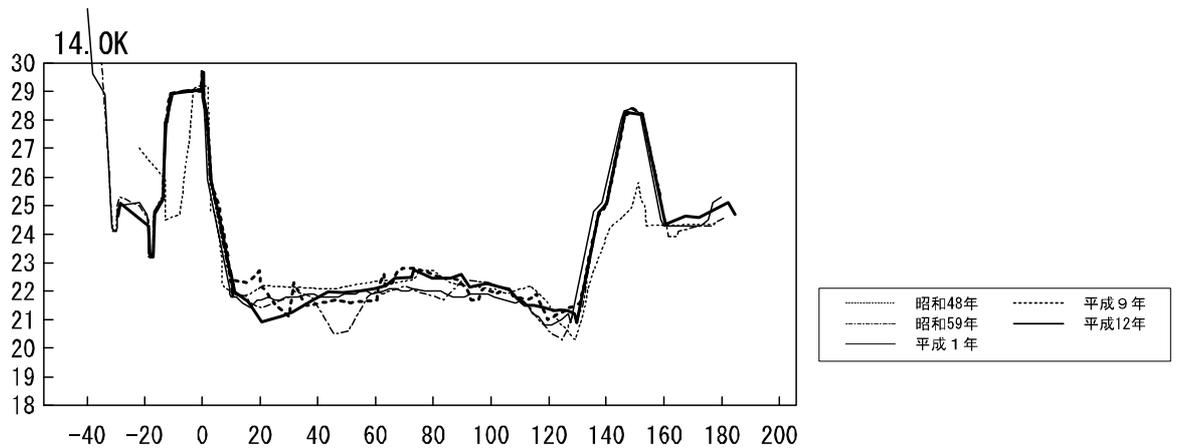
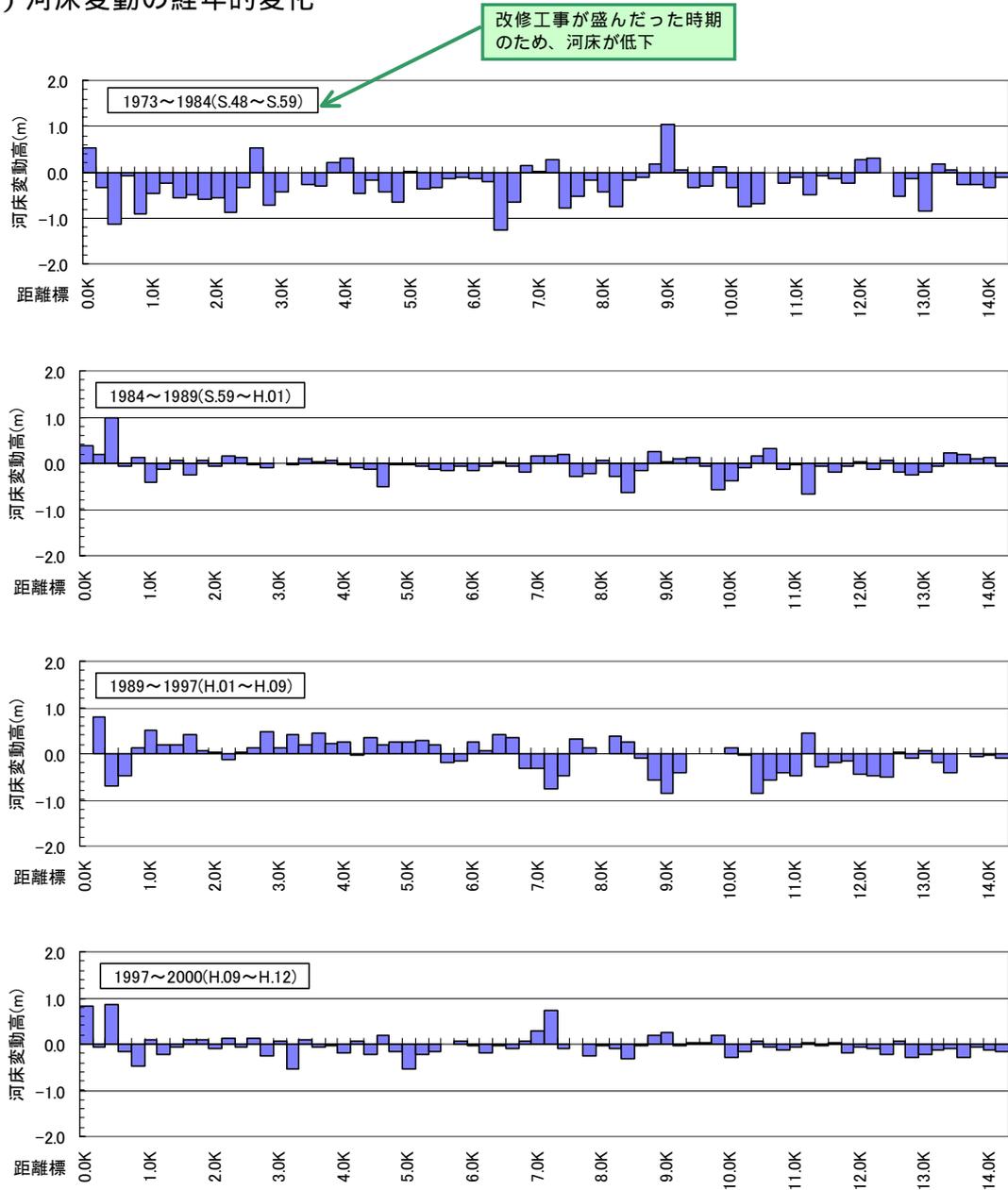


図 2-3(3) 高津川 14.0k 横断面図

横断形状は、経年的な大きな変化は見られず、顕著な侵食・堆積の傾向もない。

3) 河床変動の経年的変化

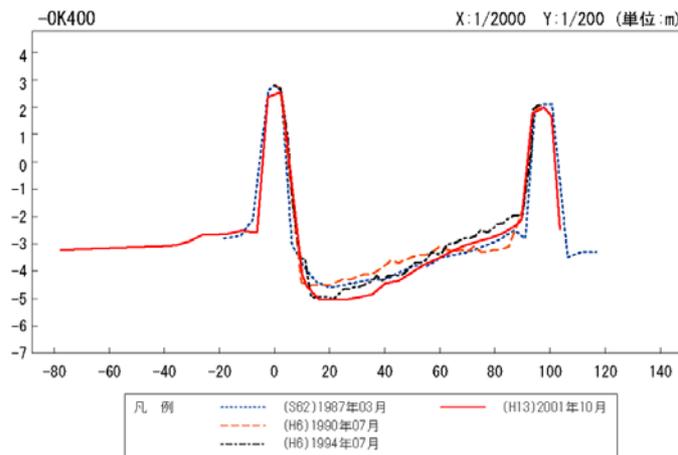
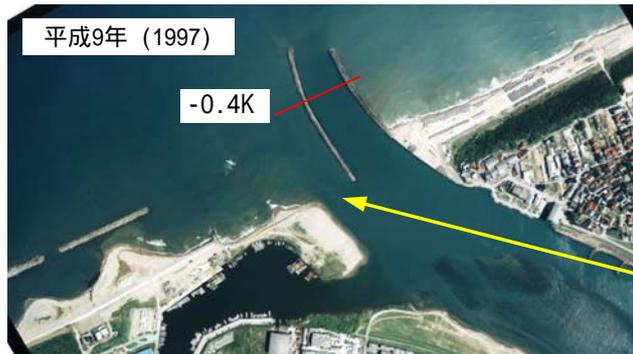


経年的に、侵食または堆積への大きな傾向はない。

既往 17 年間（1984 年から 2000 年）において、0～14.2km の変動量は年平均 10 千 m^3 の侵食であり、変動が少なく安定している。

3. 河口部の状況

1) 河口部



導流堤は、昭和 20 年代から整備が始まり、昭和 40 年代半ばに中央部が、昭和 41 年代末に右岸部がそれぞれ現在の姿となった。河口部には左岸側に河口砂州が発達し、高津川の河道および益田港の静穏が保たれている。

河口砂州は平成 10 年代に入って上流側へ移動したが、現状でも形成され、導流堤間は開口部として安定し河口閉塞は生じていない。

2) 海浜部



河口付近の汀線はやや後退しているが、海底地形はおおむね安定しており、河口地形の大幅な変化は考えにくい。

4. まとめ

高津川の土砂動態については、約 30 年間の低水路平均河床高の縦断的、時間的变化などについて検討した結果、上流から河口まで全川にわたり河床変動が少ないことを確認した。したがって、高津川の土砂移動に関しては安定している。

現況河道を基本とした河道計画により、今後とも水系全体の土砂のバランスを維持することとし、引き続き河道のモニタリングを実施する。